

介護予防策で意見交換

住民や学生ら30人参加

大山崎町と大阪人間科学大(大阪府摂津市)が協力して、町民の介護予防策を考えるワークショップが1日、同町田明寺の町立中央公民館で開かれた。町の呼びかけで集まった住民と、同大学の学生や教員ら約30人が参加し、高齢者向けの配食体験などで交流を深めながら、楽しく意見を交わした。

「介護予防新規事業構築プロジェクト」を共同で進める同町と同大学が、当事者の町民と学生らの気軽な意見交換を通してより良いアイデアが生まれればと、初めて企画した。ワークショップでは

町職員がプロジェクトの趣旨などを説明し、参加者が3班に分かれ意見を交わした。



介護予防策を考える前段として、自分のできることなどを付箋に書いて発表する参加者たち(大山崎町立公民館)

介護予防の具体策を考える前段として、各人が自分のできることや、今後やりたいことなどを付箋に書いて模造紙に張り出した。できることとして園芸やスポーツ、楽器演奏など、やりたいことは趣味・技術を生かした活動や、世代を超えた交流、健康目的のレクリエーション参加などが上がった。

配食体験を楽しんだ後、各グループ代表による全体発表もあり、終始なごやかな雰囲気だった。8日に2回目を開催し、この日の意見交換を踏まえ予防の具体策を話し合う。